

新山協ニュース

▲ 発行者 平田 大六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男 方 TEL 0258-32-0428

自然保護活動の難しさ

自然保護指導員

筑木 力

「将棋倒し」という現象がある。何かある問題が発生して、次々と連鎖反応を起こしながらその影響が波及していく事態のことをいう。

登山における自然保護活動のあり方が、この将棋倒し現象に似ている。限りなく進行する自然破壊になんとか歯止めをかけようとして、禁止事項を連発する。「草を採るな、木の枝を折るな、お花畑に入るな、指定地以外に幕営するな、登山道以外を歩くな……」

ところがその登山道でさえ歩く人がふえると、周辺が荒れてくる。だからそれを防ぐため木道を設置する。それでも原因が結果を呼び、その結果

がまた別の原因となって破壊が進む。そんな事例が尾瀬をはじめ全国各地に多い。

この考えをおし進めていくと、人間が山に入るから自然が破壊される。人間が地球で暮しているから環境が汚染される。だから破壊と汚染の根元を絶ち切るには、登山を禁止し人間を殺すしかないという結論になる。これは重大な背理であるが、このことについてどう対応するか。

実はこの手の論法は安全登山についても使われることがある。登山はそのレベルに応じていろんなリスクを伴うから、百パーセント安全な登山は登山を行う限りありえない。

だから絶対安全な登山とは、登山しないことであると結論する。まことに奇妙な理屈であるが、ではこれをどう論破するか。

ずばり言おう。以上述べた二つの推論——自然保護に関するものと安全登山に関するもの——は、ともに机上の空論である。思考論理の単純な抽象化を急ぐあまり、人間が生きる現実の個別的な姿を見

落として、生命の営み自体の否定につながる誤りを、どちらも共通に犯している。

山の自然保護についていえば、たしかに登山愛好者がふえるにつれて山の環境負荷が高まり、禁止事項をふやして登山本来の楽しみを減らす方向にと、活動を進めざるをえないのが実情である。こうした意味で自然保護活動は矛盾を含む。それを行おうとする人間自身が自己矛盾的存在なのである。だがそこで思考を停止し行動を打ち切るのではなく、この矛盾背理をのり超えて生きる実践知を見つけて進まなければならない。個人または集団としてそれぞれが背負う背理を自覚し、善意をもって生きる営みを実践しながら誠実に生きる道を探索していくことによって、背理を生きながら背理を超える活路が開けてくる。

山の自然破壊・環境汚染の問題は二つに大別できる。一つはふえ続ける登山者自身のマナーの低下、もう一つは行政・企業ぐるみの大規模な開発が引き金となる。しかもこ

の二つは深く相互に関わり合っている。つまり人間が科学技術力を駆使して勝手に山の自然を改造したり、さらにその結果を利用して安易に山に入ったたりするため、破壊・汚染が進行する。自然の側からみればこのことは自然が遭難しているともいえよう。

そこでまず登山者の立場から山の自然保護について考え、学び、活動を進めていくに当たって、わかりやすいところから手をつけ、テーマを絞って検討していきたい。

が破壊される。人間が地球で

と、人間が山に入るから自然

が破壊される。人間が地球で

登山用品専門店

—— 信頼できるパートナー ——

大新スポーツ

新潟市東郷6 ☎(025)222-3736

平成5年度日本山岳会 自然保護全国集会に参加して

石田 国夫

昨年滋賀県朝日の森で行なわれた時に、会員の筑木先生を誘った所、滋賀県までは遠いので今度近い所で行うなら参加するから、と云うことであつた。今回は東京地区へ支部がない関係で、私が担当して尾瀬に決まりましたので、早速筑木先生に連絡。日時は9月11日、場所群馬県片品村戸倉温泉ロッジ長蔵に17時集合である。それで隣接県でも有るので多人数で参加しようと考え、桑原さんにも声をかけた。すぐに承知をしてくれたが、要項を発送すると、都合が悪いので不参加してくれないかと云う。一方筑木先生の方は奥さん同伴で前日に尾瀬に行き当日の夕方にロッジ長蔵に入るとのことである。

会場は、沼田インタから120号線に乗り約50分程案内板等を見ながら行くと、戸倉温泉の終点近くにロッジ長蔵

理事の挨拶、ゲスト3人の紹介、出席11支部の報告と続き、当越後支部は県山協の活動を協同でやることを強調し、県内の山中でのトイレの問題を発言して終った。それから懇親会に移る。藤平会長の挨拶と乾杯が始まる。長蔵小屋の女主人平野紀子女史も出席をしているので早速訪問したところ、8月に糸魚川の蓮華温泉へ行って糸魚川市役所の人達に世話になったこと、又近

日中に雨飾山に行くから宜しくと云われる。

翌二日目は朝食後約40分程全体会議、そのあと各テーマ毎に分かれて分科会がもたれた。

A 自然保護とリーダーの役割
B 自然保護のためのボランティア活動
C 自然破壊に対する反対運動

事例研究として次の4項目を上げて論議に入る。

- ① 屋久島ロープウェイ問題
- ② 岩菅山オリンピック滑降コースの問題
- ③ 富士山五合目駐車場問題
- ④ 鳥海山大規模開発問題

以上4つの事例で前①②は東京本部の人が新聞、テレビ等を見聞しての説明で、③④は現地ですべての反対運動をやっておられる人達の生の声が聞けた。要点だけをお伝えします。

③ 富士山問題は、山梨県が環境庁に富士山五合目に大規模な立体駐車場建設を申し入れた。これに対し、富士山の環境保全を考える会、富士山の自然を愛するもの集い、富士の緑を育てる会、富士吉田市上吉田連合自治会、等々の自然保護団体が、それぞれの関係官庁に要望書等を提出したりして反対運動が盛り上がり、山梨県知事が県議会で五合目立体駐車場計画の見直しを表明したそうです。

④ 鳥海山大規模開発問題ですが、山形県八幡町と大手開発会社コクドが鳥海八幡ス

親会に移る。藤平会長の挨拶と乾杯が始まる。長蔵小屋の女主人平野紀子女史も出席をしているので早速訪問したところ、8月に糸魚川の蓮華温泉へ行って糸魚川市役所の人達に世話になったこと、又近

日中に雨飾山に行くから宜しくと云われる。

翌二日目は朝食後約40分程全体会議、そのあと各テーマ毎に分かれて分科会がもたれた。

A 自然保護とリーダーの役割
B 自然保護のためのボランティア活動
C 自然破壊に対する反対運動

私はCの自然破壊に対する反対運動に出ることにした。将来県内に反対運動が起きるかもしれないので、その時の参考にと、このテーマを選んだ。先ず司会者の方から

キー場開発を計画。これに対して鳥海山の自然を守る会などが反対運動を続けている最中に、突然イヌワシが飛び出し、反対派には大の味方となり、県の自然保護課は、イヌワシの最終的な調査結果が出ない限り許可を出せない。と云い、開発側もイヌワシの生息範囲営業地を説明するまでは、すべての開発計画を凍結することにしたとのことでした。大体以上のことで分科会が終りました。

又々私にとって残念でないのは尾瀬に行けなかったことである。聞くところによれば現在地は尾瀬と云ってもほんの入口にあたるようで、尾瀬に来たことにはならないのである。

又何時か機会を見付けて出掛けることにしよう。それまで体の方が持つかどうか。



日山協自然保護委員会報告

自然保護、思いやりが原点

自然保護委員長

桑原 悌治

高山錦織の社、白山国立公園一里野温泉で、10月16、17日の2日間にわたり開かれた。出席者は23県、56名で石川県山協の主管で運営された。

初日は会議と懇親会、翌日は野猿観察場を見学し、スーパー林道見学は自由行動となった。私達はこのコースを視察し、白川村に抜けた。

① リゾート開発地域の範囲は広く、また都市と山の感覚差はあるが、自然と開発の不調和が破壊を増幅しており、地域、主体者による差異が大きい。特に行政のものと考え方と行動によって、可否が左右されている。

入山者の行動責任は勿論であるが、施設の主権者が

野外観察

白山スーパー林道は公園内を貫き、よく管理、利用されている。奥深き溪谷や山稜にマイカーが楽々と入り、景観を楽しむことができる。しかし現代開発文明の巨大な力に圧倒され、文化の香りを失ってははいまいか。

② 入山料の施行状況については賛否様々であり、地域の特性を考慮した、独自性で決めるべきが大方の結論であった。

本来、自然とのかかわりは自らの足でたどり、その恵みを五感でうけとめ思うことであらう。ここに住む村人は昔も今も変わりなく、山の神（自然）に畏敬の念をもって接し、思いやりを忘れず、一体となつてくらし。これぞ、ほんとうの自然保護の原点ではなからうか。

(出席 石田、桑原)

③ その他、自然保護の理念、活動などの問題について幅広く話題提供があった。

「我が会紹介」 栃尾山の会

— よっちゃん 栃尾 守門山 —

④ リゾート開発地域の範囲は広く、また都市と山の感覚差はあるが、自然と開発の不調和が破壊を増幅しており、地域、主体者による差異が大きい。特に行政のものと考え方と行動によって、可否が左右されている。

入山者の行動責任は勿論であるが、施設の主権者が

栃尾山の会は今年、創立40周年を迎えます。団塊の世代も40歳代の中盤となりました。月日の経過は矢のようです。昭和46年、会のお盆山行は

立山、剣を3泊4日とのんびりした山旅で、20歳代の男女が20人も参加でしたからそれは賑やかで愉快でした。3泊目夕暮れの地獄谷、房治荘でのラジオニュースからはニクソンショックが伝えら

れていました。

当時そのニュースの重大さを若者達にはわかるよしもありません。昭和40年代半ばの栃尾市の人口はおよそ4万5千、現在より1万数千人程多く繊維業界は多くの若者で活況を呈していました。

職域山岳会や様々な登山サークル活動も活発で、夏季の週末の栃尾駅は谷川や越後三山、白馬や立山をめざす人達が……、守門岳に目を向ければ道院や保久礼、キビタキに多くの人達が集っていたものです。

当時の我が会の中心人物は「よっちゃん」こと佐藤良夫さんでした。会計と総務、登山用具の世話等、会の雑務の殆どを賅ってくれていました。

月例会の運営、会費の徴収、大きな山行前には家を集会場に貸せてくれたり、下山行を設定したり、立山の時は駅で見送ってくれたり……。よっちゃんは栃尾のほぼ中央部の東町という所でクリーニング店を営んでいて、そこは会の人達の集会場、個人山

情報報やら世間話のターミナルです。

まだ会に入りたての私は工場の仕事の帰りに何度も立ち寄り、山行の世話をしてもらい、現酒井会長らに付いて毎週週末になれば山に登っていた日々を思い出します。

よっちゃんは会の中心人物でありながら己の存在をアピールすることはけっしてありませんでした。

話上手で聞き上手、若者に説得力のある常識人でジョークも受けていました。山登りのために仕事をおろそかにしたときなどよくたしなめられたものです。

よっちゃんは絵がとても巧くて、会山行の案内は得意の楽しいイラストで、またファッション感覚の豊かさは会随一、吊りズボンにバイク姿のよっちゃん笑顔が浮かんできます。

どの山岳会でも同じだと思いますが会員が多くなればその志向も多様となり、自然岩登りやアルプスの縦走など所謂派手な山登りの声が主流を占めます。そんな中でよっちゃんは地元守門山の登山道の道刈りや

清掃登山、保久礼小屋の便所の汲み取りなどの……守門に
関わるボランティア活動をメ
インに考えていたようで、そ
れらに盛りの若い多くの会員
を巧く使ってなお山行や人の
和のバランスをとっていまし
た。守門の遭難救助訓練、栃
堀や塩川の山開き前夜祭参加
山岳映画の開催等、地域と密
着した山行、会運営の様子も
思い出されます。

前記ニクソンショックは、

あの大雲沢遊行ではサポートを
……記録を地元新聞で紹介
して会の存在をアピールした
りの縁の下の力持ちでした。
会員の中では一番守門を愛し、
一番会員の事故を憂い、一番
会員の和を尊重した人だった
のです。

よっちゃんという求心力を
失った山の会は団塊の世代の
子育て時期、構造不況による
人口流出も手伝って例年多数
の会員で賑わう守門の山開き
でさえ参加者がまばらの状態
が幾年か続きました。

よっちゃんは昭和54年秋不
慮の事故で突然35歳の命を閉
じました。

現在巷間云われる「中高年
登山ブーム」……御多分に漏
れず我が会の会員構成も30歳
代後半以上……。

当時私は会にあまり顔を出
しておらず、野辺送りにも行
きませんでした。

その翌日、職場の同僚に、
「山の会の連中、みんな声出
して泣いて見送ってたよ、良
い人だったからなあ」と言わ
れたとき、「ああどうしよう

かない失礼をしてしまったん
だなあ、もう会に戻れないな
あ」と落胆したことを思い出
します。

かになります。

今先人達の作ってくれた土
台を足掛かりにして40周年に
辿りつきました。

その記念事業として、

1. 北海道の山旅
2. 守門大岳の釣鐘改修等、
はデイスカッション中。

2番は何と云ってもよっち
やんにやってもらいたい仕事
なのですが……。

でもきつと守門の山頂のど
こかで我々を見守っていてく
れることでしょう。

補 足

「県山協の紙面を借りて」

栃尾市から守門に登る登山
道は栃堀からと入塩川からと
大きく分けて2つあります。

入塩川からのコースは、地

元塩川山岳会が5年前に登山
道整備で県表彰を受けたにも
かかわらず、訪れる人がまば

らと云うより、県内の登山愛
好者でも存在を知らない人が
多い様です。

大岳まで4時間くらいと確
かに長いコースですが、中腹
を構成するブナ林は、それは
見事です。

新緑の頃、紅葉の頃、山頂
にヒメサユリが咲く頃、それ
ぞれ素晴らしいので、ぜ
ひ一度このルートを歩いてみ
て下さい。

また大岳の草原の一角に、
よっちゃんを偲ぶ柱が立てら
れています。それには、「自
然を大切に……」と書かれて
います。

今本当に守門の自然を大切
にと考える時代が来ていると
思います。(平沢隆平)

行事案内

第18回自然保護
指導員研修会

期日 5月21日(土)〜22日(日)
会場 弥彦・国上山周辺
講師 町田賢一氏

県環境保全課副参事
参加申込・問い合わせ先
堀井 浩

☎0258(32)1621
長岡市末広1ノ4ノ34

連 絡

郵便振替

口座番号の変更

郵便振替の新処理システム
の導入により口座番号が数字
化されます。

変更口座は次の通りです。

資格会費徴収係口座
今までの口座番号

新潟 5・12040

新しい口座番号

00650・8・12040

協会事務局口座
今までの口座番号

新潟 6・18183

新しい口座番号

00660・9・18183

実施時期は平成6年5月か
ら変更です。

